18.　府立摂津高等学校の取組み

（1）学校教育目標(めざす生徒像)

常に前向きな姿勢で未来に夢や希望をもち、

●自他ともにかけがえのない存在であることを自覚し、感謝の心・思いやりの心を育み、礼儀をわきまえ「人」としての心を大切にする。

●自主的に考え判断し、決断したことは積極的かつ誠実に実行する、その結果について責任をもち、失敗を恐れず努力し続ける生徒を育てる。

●生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培い、社会の構成員としてともに生きる心を養うべく社会奉仕の精神の涵養を育む。

（2）主な取組みと組織体制の準備

テ ー マ…『観点別学習状況の評価のうち、特に「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を育成する学習活動とその評価方法』

組織体制…授業改善委員会が中心となり、各教科で学年を基本とした小グループを編成し、主に１学年を担当する授業改善のためのグループをパイオニアグループとした。

年間計画…パイオニアグループ交流会により教科を超えて実践を共有するとともに、職員会議で各教科から実践報告を行った。また、公開授業を通して様々な教科の授業実践を互いに見学した。

（3）主な実践とその工夫

①　授業改善の取組みに関する年間計画の共有

年度当初の職員会議で授業改善の取組みに関する年間計画を示したことで、見通しをもった組織的な取組みを推進することができた。観点別学習状況の評価に関するアンケートを４月に実施し、各教科の状況を把握するとともに、結果を全体共有することで課題に対する共通認識を持つことができた。年度末に取組みを総括することにより、成果と課題を明確にし、PDCA サイクルを意識した一連の取組みとなった。

R4.4 月	5月	6月	7月	9月	10 月	11 月	R5. 1 月	2月
職員会議での全体研修『年間計画・観点別学習状況の評価』	実践報告①【公民科】『ジャムボードを活用したパフォーマンス課題』	実践報告②【保健体育科】『思考した内容の言語化』	パッケージ研修支援『観点別学習状況の評価』	実践報告③【数学科】『フォームを活用した振り返り』	研究授業・協議【英語科】『ジグソー法を活用した表現活動』	実践報告④【情報科】『ルーブリックを作成する工夫』	パイオニアグループ交流会【理科】『ワールドカフェ形式のグループ活動』	職員会議での全体研修『総括・次年度に向けて』
観点別学習状況の評価に関するアンケート					公開授業月間		観点別学習状況の評価に関するアンケート	

【授業改善に関する年間計画】

② 教科を越えた学び合う教員集団の形成

観点別学習状況の評価に関する理解を深めるために、パイオニアグループ交流会を開催した。交流内容は、指導計画や授業実践、考査問題の工夫や成績に関する情報共有とし、今年度は４つの教科が職員会議の 10 分間を活用して実践報告をした。自身の教科だけではなく、他教科の取組みを知ることで教科の特性に応じた考え方の違いに気付くきっかけとなり、教科を越えた授業改善の視点を広くもつことにつながった。個人（点）での授業改善の工夫に加え、こういった組織的な授業改善（面）の成果により、アンケート結果のとおり、教員の観点別学習状況の評価に関する理解が深まったと考えている。

項目詳細	R4.4月	R5.1月	増加率
観点別学習状況の評価について考え方や進め方を理解している	51.3%	68.8%	**17.5%↑**
観点別学習状況の評価について実施していける	46.2%	59.4%	**13.2%↑**

【観点別学習状況の評価に関するアンケート結果（肯定回答率）】

③ 生徒を主語にした授業づくりの実践

学習指導要領で示されている育成すべき３つの柱の１つである「思考力・判断力・表現力等」を育むことを目的としたグループワークの方法について研修を行った。具体的には、10 月の英語科による研究授業・協議でのジグソー法及び１月の理科によるワールドカフェである。ジグソー法では４人で１グループを編成し、各生徒が異なる英文を別のグループで読解したうえで、自身のグループに戻りその内容をそれぞれが伝え、共通点を見出すというものであった。一方、ワールドカフェでは３人で１グループを編成し、物理の実験動画を視聴したうえで、実験結果に対する仮説を各グループで相談し、代表者１人がそのグループに残り他のグループの人に説明、グループの代表者以外が他のグループの仮説の情報を持ち帰りそれらを共有し、最終的なグループとしての意見をまとめるというものであった。

【ワールドカフェ形式のグループワークの様子】

生徒がジグソー法で学んでいる様子を見学したり、教員自身がワールドカフェを経験したりすることで、「生徒を主語にした授業づくり」について理解を深めることができた。ペアやグループでのワークは時間がかかることから取り入れてこなかった教員が導入したところ、回数を重ねる毎に、机や席の移動、相互採点等をスムーズに行い、自然と教え合う姿が見られるようになった、とのことだった。また、発表のためのスライドや動画作成等を通じて学んだことをアウトプットする活動が充実し、生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業づくりにつながっている。結果として、パフォーマンス課題や振り返り等で１人１台端末を活用する授業が増え、生徒の端末利用頻度も向上した。

【グループワークをしている数学の授業の様子】